

ニジェール支所便り

5月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni_oso_rep@jica.go.jp

ギニアウォーム撲滅記念式典で JICA 関係者が表彰

2014年4月3日グランドホテルにおいて、ニジェール国保健省主催で「ギニアウォーム撲滅記念式典」が開催されました。MANO AGHALI 保健大臣は海外出張で不在であったことから、MAIKIBI KADIDIATOU DANDOBI 人口・女性地位推進・児童保健大臣が代理として出席され、「ギニアウォーム撲滅国家プログラム(PNEVG: Programme National d'Eradiation du Ver de Guinée)」に対して多くの支援があり、この度ギニアウォームがニジェール国から撲滅された旨の感謝の意のスピーチが行われ、ギニアウォーム撲滅に寄与した関係者に対して、感謝状が手渡されました。今回表彰されたのは、WHO、UNICEF、JICA、カーター財団、ヘレンケラー・インターナショナル、デンマーク国際開発援助、アメリカ平和部隊、JOCV、ニジェール国ボーイスカウト、地方政府関係者、水利省関係者、国家教育省関係者、公共報道関係者、その他、功績のあった一般人です。JICAは、代表として松本所長が、JOCVからギニアウォーム撲滅のための啓発活動に貢献した影山晃子 OV(12/2 感染症対策)と藤田由布 OV(9/2 視聴覚教育)が表彰されました。



ギニアウォーム撲滅キャンペーンポスター
「患者を見つけると2万CFA進呈！」



Dr.Maimoctar Hassane 保健省サービス総
視察官(次官クラスに相当)より表彰状を受
け取る松本支所長



ギニアウォーム撲滅に寄与した援助機関の代表とニジェール政府代表との記念写真



MAIKIBI KADIDIATOU DANDOBI 人口・女性地位推進・児童保健大臣と松本支所長の記念写真



ギニアウォーム撲滅対策活動に JOCV として参加し、表彰された影山 OV と当時一緒に活動した同僚



式典に参加し、表彰状をもらった松本所長と影山 OV

【関連報道のリンク先】

WHO による式典の記事

<http://www.afro.who.int/fr/niger/press-materials/item/6452-certification-ver-de-guin%C3%A9-c%C3%A9r%C3%A9monie-officielle-de-remise-de-t%C3%A9moignage-de-satisfaction.html>

プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

【FFS の進捗 暑さに負けず】

現在、マラディ州 18、タウア州 12、ニアメ州 2、合計で 32 の FFS が動いています。各サイトでは、普及員と農民ファシリテーターが、暑さにも負けず毎週 1 回の FFS セッションを実施しています。FFS を実施していく上で、いくつか鍵となるイベントがあります。その中のひとつが Field day です。Field day では同じ村や近隣の村落の人々を FFS 活動を実施しているホストファーム(畑)に招き、実践してきた FFS 活動の内容について、模造紙を使ったり、圃場を見学してもらったりして説明をします。招待者の中には、FFS メンバーが所属する貯水池利用者組合の役員、村長等村の要職を務める人もいます。Field day では、FFS 開始前は人前で話すこ

とが得意ではなかった村人も、自分たちが行った FFS の成果について自信をもって発表する姿が印象的に見られています。マラディ州のあるサイトでは、村長より「他のプロジェクトは魚を持ってきてくれた。VRACS は魚を持ってきてくれなかったが、魚の釣り方を教えてくれた。」とプロジェクトのインパクトを表現してくれています。一部のサイトでは乾季作の収穫を終え、実践した FFS の評価を行っています。その後は、雨季作の FFS に向けた準備が開始されます。参加者が次にどのようなテーマを選ぶのか、今から楽しみです。(長井専門家)



発表を熱心に聞く参加者
ニアメ州 Tchingal Bangou



収穫したトマトの計量を行う
FFS メンバー
ニアメ州 Tchingal Bangou

【ニアメモデルサイトでの FFS】

2 つあるニアメモデルサイトのうち、ニジュール川沿いに位置する Yantala Corniche では、乾季にはサラダ菜の品種比較に取り組んできましたが、その活動が終了しました。次のエンタープライズとして、グループメンバーは養鶏の FFS に取り組むことにしました。2 種の食用鶏について、飼育方法の違いが成長にどのような差異を生むかについて観察をします。

4 月 6 日には、鶏舎を作製しました。畜産局の職員から鶏舎のデザインについてアドバイスをもらい、事前に購入したり集めたりした資材を使って建設を行いました。20 名近いメンバーが議論しながら建設を進め、約 3 時間でほぼ完成となりました。

建設費用は、乾季の FFS で取り組んだ収穫物(サラダ菜)の売り上げと参加者の分担金で賄うことができそうです。食用鶏の品種ですので、最後は換金する(食べる?)ことにはなりますが、こういった結果になるのでしょうか…。(長井専門家)



骨組がほぼできあがった鶏舎



ほぼ完成した鶏舎

【2013 年度貯水池利用者組合の活動計画の実施状況評価】

タウア州及びマラディ州の貯水池利用者組合の活動計画策定からほぼ 1 年が経過したことから、3 月下旬から 4 月上旬にかけて両州の 2013 年度の活動計画の実施状況の評価を行ないました。タウア州の組合の活動計画は、雨季作及び乾季作の種子購入に限定した計画となっているのに対し、マラディ州の組合の活動計画は、農業資機材販売所の設置や井戸掘削、植林等多岐に亘った内容となっています。例えば、マラデ

イ州の Magagi Rogo サイトでは、独自資金で、植林、畑の学校(FFS)、貯水池監視委員会設置、ボーリング井戸掘削、農業資機材販売所設置の活動を行っています。外部の支援では、野菜栽培農具の購入、FFS 実施、ボーリング井戸掘削、ポンプ購入、貯水池監視活動、荷車購入、農産物保管倉庫建設、農業資機材販売所設置等の活動を行っています。このサイトでは、ボーリング井戸掘削及びポンプ購入に関し、当初の計画がそれぞれ 400 本であったのに対し外部からそれぞれ 515 本、金額にして 103,000,000 FCFA の支援を得ていることが分かりました。これ以外にも様々なプロジェクトから総額 129,400,000 FCFA の支援を得ています。これらの外部からの支援を得ることができた要因の一つに貯水池利用者組合を設立したことが挙げられると考えます。このサイトは、外部からの支援額も大きい分、独自資金の額も大きく、8,549,000 FCFA を支出しています。但し、サイトによっては、独自資金による活動も外部資金による活動も少ないところもあり、次期の活動計画策定に当たっては、先ず独自資金による活動を計画に沿ってできるよう助言していきたいと考えています。(大須賀専門家)

■■みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■

みんなの学校プロジェクトからは、住民参加を通じた質の改善のためのモデル開発パイロット活動ならびに、それら住民活動を支える体制作り・強化についてお伝えします。

【補助金モデル開発パイロット活動】

まず、住民が補助金を厳正に管理し、学習の質の改善を目的とし適切に使えるようにするための能力開発モデルでの銀行口座の活用についてお伝えします。2013 年 1 月に開始されたこのパイロット活動では、補助金管理に銀行口座を使うことを促進しています。ニジュールでは、学校によっては、物理的に銀行までのアクセスが難しく、口座開設が困難な場合もあると予想されましたが、補助金対象 120 校学校運営委員会すべてが、銀行口座を開きその口座を通じた資金運用を行ってきています。この銀行口座の活用について、委員会メンバーならびに住民から、資金保管にかかる安全性や管理の透明性が向上したと、肯定的に受け取られています。その一方、銀行が学校から遠距離にあるためのアクセス難、口座管理にかかる情報の浸透不足・理解不足などが原因で、口座管理費未納の問題や、学校運営委員会の自己資金管理における活用がないなど、口座活用が積極的・実践的な活用にまで至らない状況も見受けられました。一方、教育開発促進のため、学校運営委員会への直接的な補助金供与という手段が政府やドナーによって検討されています。学校運営委員会による銀行活用能力獲得は、そのような外部資金を得るためのひとつの大きな条件となります。

それらの状況を踏まえ、今月プロジェクトにおいては、銀行活用の利点と不利点を見極め、COGES・住民にとって有効な活用のためにはどうすべきか—、コミュニティで実施可能な戦略について、対象 COGES と協議をするワークショップを開催しました。協議を通して、単に銀行システムの理解不足や慣れの問題が活用の妨げになっている面も伺われましたが、銀行活用に消極的な意見は、やはり、銀行までの移動費、時間的コストを含む機会費用の問題でした。現状では、町中にしかない銀行活用は、農村部の COGES・住民の負担を増やすこととなります。それでもなお銀行を利用することへの住民の利点は何であるのか。負担を最小限に減らし、利点を強化するにはどうすべきか、銀行活用を COGES の資源管理システムの一要素として組み込むにはどうすべきか—。今回、一つ一つの課題を COGES の代表者と協議し、さらにその情報が住民と共有されることで、COGES・住民による外部リソース管理能力の強化に繋がったと思われます。

現在、教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)基金による「基礎教育支援プログラム」において、

COGES への補助金供与が実施されることになりましたが、その中で、みんなの学校プロジェクト開発の補助金モデルが国のモデルとして採用されることとなっています。これは、このモデルの導入、みんなの学校プロジェクトの能力強化が、COGES による外部リソースの有効な管理を可能にするものであるとともに、COGES の活動を通して児童の学力向上へつながる可能性をも内包するものである点も評価されたと言えます。

来月には、みんなの学校プロジェクトの補助金モデルの有効性を測るため、現在 JICA 研究所と共に取り組んでいるインパクト評価のエンドライン調査が実施されます。みんなの学校プロジェクトによる補助金モデルが、単に外部リソースをきちんと管理するだけでなく、それらリソースが児童の学力向上へと繋がるという効果、モデルの有効性を示せることが出来れば、今後、ニジェールのみならず、周辺国の政策にも貢献し得ることも期待されます。

【州教育フォーラムモデル開発】

2 つめの報告は、州教育フォーラムモデルの開発です。このモデル開発の目的は、COGES/住民による質の改善にかかる活動を支援し、特に地域における教育開発のコミュニティと行政の協働的な取り組みを促進することです。コミュニティと行政の協働活動の枠組みを確立することで、プロジェクトが第 2 フェーズに実施した「州教育フォーラム」をより持続発展性のある活動へと発展させていきます。このような取り組みが可能となるには、コミュンレベルの住民組織である「機能する COGES 連合」の存在とそれを内包する COGES モニタリングシステムが軸となります。今月、その COGES 連合の活動状況を見極めるため COGES 担当官会議のモニタリングを実施しました。大半の COGES 連合が既に今年度第 2 回の連合総会を実施し、例年に劣らず各連合にて順調な活動が実施されているとともに、それを支援する教育行政や地方行政の関与も確認されました。特に、州教育フォーラムモデル開発のパイロット活動対象州であるタウアでは、COGES・COGES 連合自体の機能性の高さに加え、教育開発にかかる住民組織の必要性・有効性を理解した教育行政・地方行政の強い関与と支援態勢が伺えるものでした。

今後は、COGES・COGES 連合と地方行政の協働を促進する枠組みとなる機能的な「コミュン評議会」モデルの検討を経て、6 月のタウア州教育フォーラム開催へと繋げていきます。(影山専門家)